

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2018年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
平成31年4月23日発行（年1回発行）

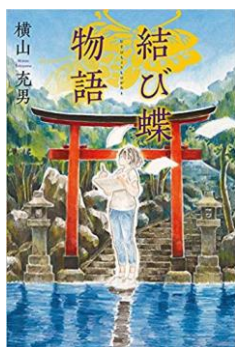
結び蝶物語

ちょう

横山充男／作 カタヒラシュンシ／絵 あかね書房

一ツ蝶物語

横山充男／作 辻恵／絵 ポプラ社



あかりは、祖母のアルバムに明治時代の夫婦の写真を見つける。写真の裏には、三つの神社の名前があった。一つ目の高宮神社を訪れた時、不思議な幻が現れる。それは、戦国時代の少女が徳川家康を助けるシーンだった。強いなつかしさにひかれ、次々と神社を訪ね歩くあかりは、古代や幕末の幻にも出会う。

姉妹編ともいえる『一ツ蝶物語』では、主人公を変え、少年が過去の幻を追ううちに京都のしもごりょう下御霊神社であかりと出会う。

ヴァンダーカンマー みわく ここは魅惑の博物館

榎崎茜／著 上路ナオ子／画 理論社



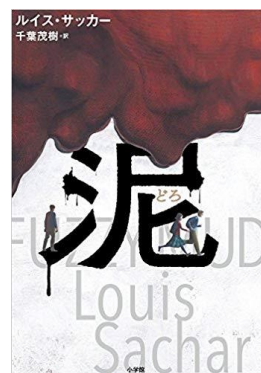
職場体験の日、中学生たちは県立自然史博物館で、それぞれ違う仕事を割り当てられた。ニワトリの骨格復元に向けて、ひたすらフライドチキンを食べさせられる元気な円佳。除草のため、カピバラを放牧しに郊外へ向かう内気な知恵。教室では全く接点がない二人は、標本作成室で思いがけず言葉を交わす。互いの名前もうろ覚えだった二人だが、話をするうちに今までの印象がみるみる変わっていった。

泥

ルイス・サッカー／作 千葉茂樹／訳 小学館

学校帰り、マーシャルとタマヤは立ち入り禁止の森に入ってしまう。待ちぶせていたいじめっ子のチャドに襲われるが、地面にあった不気味な泥を顔面に投げつけ、なんとか逃げ切った。その翌日、泥に触れたタマヤの右手は赤い湿疹で腫れ上がり、チャドは行方不明というニュースがとびかう。

その頃、学校近くにある秘密めいた農場では、全く新しい粘菌が新世代の燃料として開発されつつあった。



わたしの空と五・七・五

森埜こみち／作 山田和明／絵 講談社

入学後、空良は悩んだ末に弱小文芸部に入部する。部では部員を増やすため、自作の俳句を持ち寄って良い作品を選ぶ〈句会〉を開催することにした。

なかなか俳句を思いつけず校舎の周りを散歩していた空良は、同級生が先輩にながられているのを目撃する。口止めされ、もやもやした気持ちを抱えた結果、出来た俳句は「春の闇あることを知り動けない」だった。

この川のむこうに君がいる

濱野京子／作 理論社



宮城に住んでいた梨乃は、東日本大震災のときに兄を亡くした。転校した中学では、〈かわいそうな被災者〉という目で見られ、居心地の悪い思いをする。

心機一転、高校では被災経験を隠して吹奏楽部に入部するが、同じ部の紺野は福島での被災を屈託なく話し皆にとけこむ。複雑な気持ちで紺野を避ける梨乃は、やがて重なり合う楽器の音と津波の光景がシンクロしていく。

サイド・トラック 走るのニガテなぼくのランニング日記

ダイアナ・ハーモン・アシャー／作 武富博子／訳 評論社

ジョセフは、ADD（注意欠陥障害）があり、一つの物事に集中することやスポーツが苦手だ。それなのに、新しく出来た陸上チームに誘われ、クロスカントリー走に出ることになった。森の中を抜けて2400メートルを走るのだ。

初めのうちは、脇腹が痛んだり、注意がそれて走っている事を忘れたりトラブルの連続だった。そこでどのような練習をしたのか日記をつけることを思いつく。



マレスケの虹

森川成美／作 小峰書店



日本がまだ貧しかった明治時代、多くの人が仕事を求めてハワイに渡った。その後ハワイで生まれた子どもは日系二世と呼ばれ、アメリカの市民権を与えられる。

やがて日本との間で始まった戦争で移民たちはスパイの疑いをかけられ、マレスケの祖父も無実の罪で拘束された。ハワイを心から愛すマレスケの兄は、アメリカへの忠誠を見せようと18歳の若さで軍隊に志願する。

南西の風やや強く

吉野万理子／著 あすなる書房



伊吹^{いぶき}はエリートの父に難関中学への進学を期待され、押しつぶされる思いでいた。息抜きに訪れた夜の神社で同級生の多朗^{たろう}に会う。二人は、おみくじの「南西に吉あり」の言葉通り、伊豆半島を目指し海岸ぞいを歩き始めた。

母が夜通しスナックで働くという多朗は、中学でヤンキーを目指し、高校卒業後は北海道で祖父母の農場を継ぐと話す。伊吹は勉強だけではない将来の可能性に気付く。

ヒトラーと暮らした少年

ジョン・ポイン／著 原田勝／訳 あすなる書房

母の故郷フランスに暮らしていた孤児のピエロは、ドイツ人の叔母に引き取られる。叔母が家政婦として働いていたのは、ナチス・ドイツ総統ヒトラーの別荘だった。

ピエロは、別荘に来るヒトラーと接するうちに、ドイツ人が世界で一番優秀であるという思想に影響を受けていく。やがて使用人仲間にも高圧的にふるまうようになり、ヒトラー暗殺を企てた叔母とその恋人を告発してしまう。



かならずお返事書くからね

ケイトリン・アリフィレンカ／著 マーティン・ギャンダ／著

リズ・ウェルチ／編 大浦千鶴子／訳 PHP研究所



アメリカに住むケイトリンは、授業で他の国へ手紙を書くことになった。彼女が選んだ国はジンバブエ。受け取ったのはアメリカ留学を夢見るマーティン。彼が貧困のために教育を受けられないことを知ったケイトリンは、マーティンを助けようと自分のできる事を模索する。

遠く離れた地で暮らす二人が、互いを家族のように思いあい、長い時間をかけ夢を叶えた実際の物語。